

伝説 王妃の命の水

兼城按司の長女真呉勢(マグジー)は尚円王の最初の王妃であった。

この王妃は体が弱かったので、ある日首里城に登城するとき、大名のトゥンモーで貧血をおこし意識をうしなった。

カゴ担ぎの者達はびっくり仰天、カゴをとめて近くのトゥンガーから水を汲んで飲ませた。

王妃はその清水で意識をとりもどした。その後はトゥンモーにさしかかると必ずカゴを止めトゥンガーの水をのんでから城に向かうのが習慣となっていた。

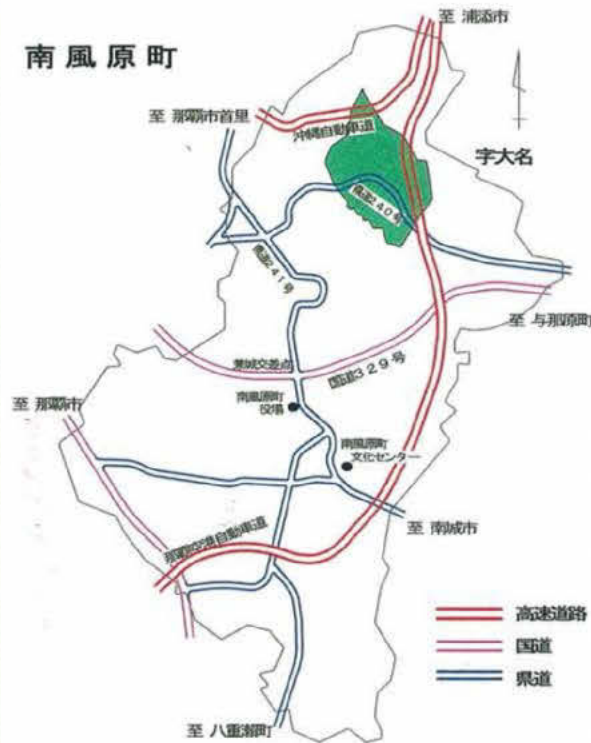
それ以来トゥンガーを拝所として住民が拝むようになりいつの頃からかトゥンガーの近くをヒージャーガーヌニーと呼ぶようになった。

王妃は後に内間御殿に隠退し、御殿の大君になったと伝えられているが、実家の兼城按司の城と首里城との往復のときは大名集落を経て行くという道順がとられていた。

(南風原町誌から引用)

大名プロフィール

人口(男)…507人 世帯数…361世帯
(女)…481人 面積…50.7㌶
合計…988人 2011(平成23)年7月現在



発行：非営利活動法人 南風原平和ガイドの会

住所：沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武257

南風原町立南風原文化センター内

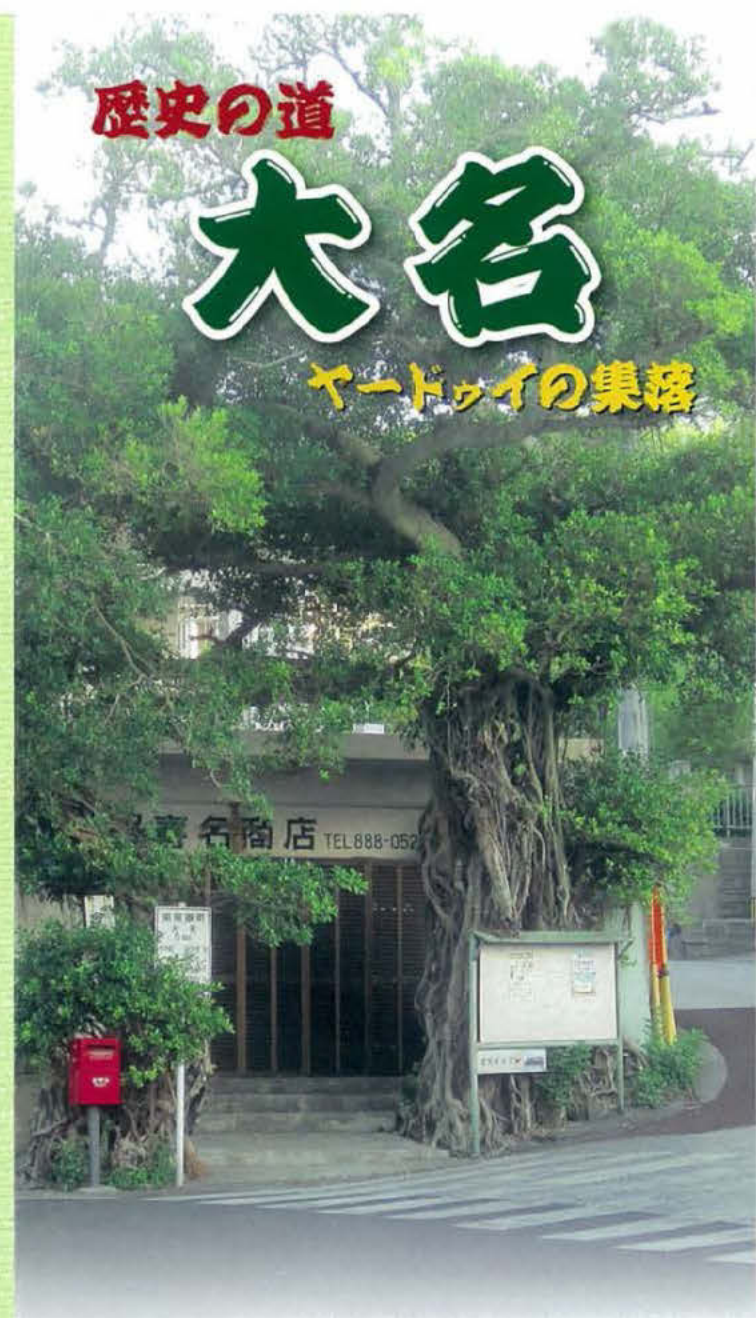
電話・FAX：098-889-2533

平成23年 沖縄県雇用再生特別事業『シマじまガイド事業』

歴史の道

大名

ヤードゥイの集落



大名は与那覇の久米原、宮城の大名原・宮城原の3つのヤードゥイ集落を合わせて、1951(昭和26)年新しい行政区として誕生した。

特定非営利活動法人 南風原平和ガイドの会



戦前の暮らし

耕地や水田が少ない地形で、専業農家が少なかったことからムラ人には、色々な暮らしがあった。

道路工夫、石大工、バシヤスンチャー(馬車引き)、酒屋所有の土地でヒョーサー(日雇人)やサツマイモ作りの手伝いをする人もいた。

また、豆腐の製造や行商も盛んで、豆腐粕は市場で販売し、絞り汁は豚の飼料にした。ターイユトウヤーは流れの淀んだ川で網打ちをして捕ったフナを、赤田市場へ売り出した。それは解熱薬として珍重され、高値で売れた。

その他にも昭和初期には、紡績工として本土へ出稼ぎする人や、ポーシクマー(帽子編み)の副業をもつ家が多かった。



パナマ帽子

大名の避難壕(地図の⑥⑧)

戦前大名は各班(3班)ごとに防空壕が掘られていた。それ以外にも個人の壕が掘られていた。

その中のひとつ真志喜の壕では1945(昭和20)年5月に米軍の直撃弾にあって21人のうち20人が一瞬のうちに亡くなった。東恩納厚賢さんがただ一人生き残った。

ジンチョーガマ

戦前県道40号線(現240号線)の大名から新川に向かう途中は人家がなく右手は丘が道に迫りさびしい所、ジンチョーガマは赤木の大木が影を落とす薄暗いところにあった。その場所は幽霊が出るという噂もあり夜遅くなるとわざわざ回り道する人もいた。

戦前そのガマの中で大名の女性達が、パナマ帽を編む作業をしていた。パナマ帽子の原料はアダンの葉で編むのであるが、ガマの中は適度な湿度があり作業がはかどったという。

クンディーと安里又原一帯

大名集落の東側から北側にかけては、急傾斜地帯である。土質がジャーガルとクチャでできている為、風化した土が暴風雨の度に崩れるのでクンディーと呼ばれている。クンディーにはヌーリガーがありコンコンと水が湧き出ているが地すべりで次第に低い方へと移動し、変形しても水は豊富であった。安里又川一帯の水は国場川に注ぐ。



飛び安里にまつわるはなし!!

今から200年以上前の1800年頃に尚温王の前で空を飛ぶという奇抜なことをやってのけた「飛び安里」は大名の山からも飛行したといわれている。

安里一族の墓守を戦後まで続け、飛び安里の遺骨を飛行機に乗せてハワイの実家に送り届けたのは大名の安里周徳氏であった。

ウマヌナガニー



ウマヌナガニーは大名集落の東側南風原ダムと高速道路にはさまれた所にありその形が馬の背に似ているのでそう呼ばれている。この一帯には大名の共同墓地がある。

1 ムラ屋・グフンシジ



1927(昭和2)年 摩文仁家から土地を購入。その後茅葺長屋を建設したが、戦災で焼失。現在の公民館は5代目。

屋取集落である大名では、ムラの共同体としての宗教はなかった。1927年 弁ヶ岳の神をまねき、ウカミヤ(御神屋)を建て、ムラの守護神としてグフンシジを祀った。沖縄戦で破壊されたが、1992(平成4)年、現公民館の裏に復元。

2 上の井 (イヌカー)

ムラガーのひとつで、毎年字のウマ一チヌ御願にムラの顧問や評議員が6ヶ所の井戸をまわり、拜んでいる。

当時は6ヶ所の井戸の中でもこの井戸の水が一番おいしかったと、字の古老は話している。現在も雑用水に利用されている。



3 モーグラー

照喜名商店は戦後の早い時期から今まで続く町内でも歴史の古いマチヤグラーのひとつで、その前には大きなガジュマルの木が立っている。そのガジュマルは大名の歴史をみつめてきた。

昔、このモーグラー(広場)では夕方には昼間の仕事を終えた青年たちが力石を持ち上げ力自慢をしたり鉄棒をして遊んでいた。



今も残る力石

11 摩文仁家の墓



尚質王の次男・摩文仁家の始祖、尚弘毅(大里朝亮1647~1686)の墓。11年間摂政を務めた功績により国王から贈られた拝領墓、築造年代は不明。1970(昭和45)年7月14日、町内唯一の県指定有形文化財に指定された。

- ① ムラ屋・グフンシジ
- ② 上の井(イヌカー)
- ③ モーグラー
- ④ ガマグチ
- ⑤ ヒージャガー・ヒージャガーピラ
- ⑥ 三班塚
- ⑦ クンバルサーターヤー
- ⑧ 真志喜の塚
- ⑨ 久米原井(クンバルガー)
- ⑩ メーヌサーターヤー
- ⑪ 摩文仁家の墓



4 ガマグチ・町道10号線



明治の頃の県第1号の馬車道。与那原街道と言われ地方から首里に通ずる主要道路であった。戦前は一中、師範、工業、女子工芸学校の生徒らが誇らしげに通学していた。酒屋のカシゼー買い、樽を馬の背に道を急ぐ酒ウーサー、頭に農産物をのせ坂道を上る農婦など、商いの人々で早朝から賑った坂道である。

9 久米原井(クンバルガー)



与那覇クンバルガーともよばれていた。古老の話によると、干ばつが続くと、湧き出る水が少ないので、クバの葉で作ったツルベで少しずつくんでターグ(水を入れるバケツ)に入れるので非常に時間がかかり井戸の周りは順番待ちでたくさんの人が並んでいた。



7 10 サターヤー

上ヌチンジュが使用したクンバルサーターヤー。下ヌチンジュが使用したメーヌサーターヤーの2ヶ所でキビ作農家が共同で建てた茅葺の小屋でした。キビの熟度の見極めから煮詰め工程まで経験を積んだシーソー(製造人)の腕のみせどころでした。

5 ヒージャガー

東方から首里に上る時、長い坂道に差し掛かる所にあり、通行人が渴きを癒し休憩する泉となっていた。

しかし雨が降ると街道に水があふれ歩行に困難をきたした。

そこで1769(乾隆34)年 知念筑登之らが呼びかけ、井戸を掘り石をつんだ。

1990(平成2)年 町の文化財に指定された。



ヒージャガーピラ

琉球王朝時代の重要な儀式「お新下り」「東うまーい」の時の道筋で、当時国王や聞得大君もこの道を通り東方へむかった。



ツルベ